（様式３－２） 調査研究活動記録票（先進地視察又は現地調査に要する経費）

No.1　　嬉野市議会議員　　山口　虎太郎

実施月日	平成30年5月9日（水）
実施時間	9時30分～11時40分
調査先	高知県　いの町役場
調査所在	高知県吾川郡いの町１７００－１
調査の目的	移住支援の取組みについて
調査先担当者	いの町総合政策課　移住専門相談員小川美佐氏・主任杉本奈奈世氏
内容・結果等	高知県は東京・大阪のアンテナショップに移住支援窓口あり、県・町の移住促進課と連携し ２段階移住支援体制の取組みを行われていた。 [目的] いの町がテレビでも紹介され、どのような支援の取組か研修を行った。 [内容] 高知移住に興味ある方（１段階目） 移住・滞在により各町の情報収集へ最大２２万円の補 助と、物件探しのための高知市内滞在費・レンタカー費用の補助等があり、安心して探せるおもて なし。（２段階目） 高知市を起点として子供の環境・町村の環境・生活の環境を各市町村の移住 専門相談員が対応され移住決定までネット環境・銀行・スーパー・ガソリンスタンド・産婦人科病 院、細かくは地域行事費用・水道料金まで詳しくケアサポートされている。 さらに農地付き移住者にも農業委員会と連携し条件等も決められていて、移住しやすい環境づくり が進められています。期間移住についても不動産屋と連携し安心して移住出来る取組みだった。 [感想] 担当推進員の熱意と、きめ細やかな情報は「おもてなし」を掲げるいの町を感じた。 そこには、女性町長ならではの細やかな気配りの行政を感じ、職員の方が相談者に対し情報を 細かくされているところに、熱意を感じた。 嬉野市では3年ほどで配置異動があるので、はたして熱意をもった対応ができている のかと強く思った。専門職員の育成と担当を置くべきと考えさせられる研修であった。

上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額（円）
	旅費		34,380
	宿泊費		22,000
	合計		56,380

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

（様式３－２） 調査研究活動記録票（先進地視察又は現地調査に要する経費）

No.2　　嬉野市議会議員　　山口　虎太郎

実施月日	平成30年5月9日（水）		
実施時間	１３時３０分～１５時３０分		
調査先	高知県　佐川町役場		
調査所在	高知県高岡郡佐川町甲１５０－２		
調査の目的	自伐型林業の取組みについて		
調査先担当者	佐川町役場産業建設課　笹岡亮太氏		
内容・結果等	[目的] 佐川町が取り組む自伐型林業の取組みの研修を行った。		
	[内容] 平成25年度　現町長公約により取り組まれ、推進計画策定及び研修を開始。		
	平成28年度には町管理による民有地集約を本格的開始と山林集約化推進員を設置		
	平成29年度にも毎年　地域おこし協力隊4名雇用と実践されている。		
	自伐型林業とは、自己･他者･地域の山林を永続的に管理･経営していく自伐林家の経営理念を		
	取り入れ50年後･100年後に価値ある山づくりをめざし、皆伐をせず間伐を繰り返す超長伐期施業で		
	ある。高性能機械導入よりも、雇用を生むことが出来る。目的は高密度に作業道を敷設し車両による		
	間伐材搬出を基本とする。作業道は切り土高を1.4M以内、道幅も2.4M以内とし山に優しく災害に強い		
	道づくりを基本とし、専門講師との実践を行う。基本町行政が主体となり担い手･林地集約･情報整備を		
	行い、地域おこし協力隊が管理業務で生計がたつよう研修と作業道づくりの実践をされており、山へ入		
	り視察を行った。作業道の排水は、一方へ偏らないよう考えられ傾斜角とカーブの取り方を説明受けた。		
	間伐材が、作業道間近で処理ができ積み込める方法を取り入れられていた。		
	しかし、険しい地区は「ケーブルによる搬出もあります」との説明も受けた。		
	[感想]		
	行政への管理委託の難しい課題を克服し実践され、災害から山を守る林業の実践と		
	人づくりの取組みを行われていた佐川町に勇気と希望をみた研修でした。		
	来年度より森林経営管理法が施行されるが　嬉野市と山林所有者がどう準備していくのか、		
	大きな課題となると考えます。		
	経　費　の　内　容	支　払　先	金　額　（　円　）
上記活動に要した経費	旅費		NO.1に同じ
	宿泊費		
	合　計		0

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること